

科目名	学校教育学特講	担当者	キタノ 北野 アキオ 秋男	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義の前期においては、現代の我が国における教育改革を総合的・多角的に検討する。現代の教育改革は、新自由主義と新保主義という思想的な文脈から推進されているが、前者は、おおむね「競争」「選抜」「淘汰」を旨とし、具体的な制度改革として中高一貫校、学校選択制度、大学改革、教育特区、学力テスト政策などが挙げられる。後者は、日本人としての美德や規範意識の涵養を目指すものであり、教育基本法の改訂、美しい日本語、道徳の強化などが挙げられる。本講義では、1980年代以降から開始される一連の教育改革の意味や内容などを学ぶ。</p> <p>本講義の後期においては、学校教育における「学び」の問題を取り上げる。第一には、教育学における古典的名著とされるJ.デューイの『学校と社会』を講読し、我が国の学校教育にも多大な影響を与えた経験主義教育の源流を確認する。第二には、わが国の大学生における「学び」の変容と実態を問題とし、大学生に対する学習支援のあり方を検討したい。とりわけ、大学における「研究重視」から「教育重視」への脱皮、学生の学習支援を行うティーチング・アシスタント制度の重要性を理解したい。</p>		
到達目標	<p>上記の講義目的を理解した上で、教材を丁寧に読み、課題に適切に応えることを求めたい。とりわけ、一次資料を自ら読み、自ら考え、分析し、文章化する訓練を行いたい。解説書や研究書を読むことも大切であるが、それ以上に、自分の力で資料を読み、分析することが研究を行う際には重要だからである。</p>		
学修方法	<p>まずは基本教材を丁寧に読み進め、課題が何を求めているかを理解する。その上で、関連文献、参考資料なども読み、課題に深く迫る方策を検討する。トピック、アウトラインが決まったら、一度文章化してみる。再度、読み直し、不足の点、不明な点などを再度調べる。何回か文章を推敲し、適切な文章にまとめる。最も重要な点は、求められている課題に対して、自らの明確な意見、深い思索を反映した文章になっているか否かである。また、参考文献など挙げる際にも正確な情報を提示して欲しい。</p>		
スケジュール	<p>4月のガイダンスでは、科目の内容、履修のポイントなどを説明する。</p> <p>前期・後期の課題提出までは、おもにメールにて草稿を提出して頂ければ、何度でも問題点の指摘を行う。面接を希望する学生がいれば、事前連絡を頂ければ、面接も行う。また、特別研究を受けている学生であれば、指導の際に質問などあれば、遠慮無くして欲しい。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	課題に適切に答え、文章の内容・形式ともに不備がないこと。参考文献の情報も正しく記入されていること。枚数的には5枚程度。一次資料を読み、深い考察があれば、高く評価します。
	平常評価	0%	メールのやりとりの回数など多少は考慮します。
履修者への要望	<p>指定されたテキストを中心に、課題に適切に答えること。合わせて、参考図書も課題に応じて読むこと。レポートは、タイトルを付けて、章(節)に区分し、最後に参考文献も明示すること。枚数は、最低でも4枚以上。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 北野秋男編著            教材名： 『新訂 わかりやすく学ぶ教育制度』（啓明出版，2003年）            ISBN:978-4-87-448026-7 2,000円+税</p> <p>著者名： 北野秋男著            教材名： 『日米のテスト戦略』（風間書房，2011年）ISBN:978-4-75-991879-3 2,000円+税</p> <p>前者の教材は、日本や世界の教育制度改革の動向を解説している。とりわけ1980年以降における我が国の教育制度改革の動向を分かりやすく解説しつつ、新自由主義や新保守主義などの思想的な文脈も理解できる内容となっている。後者の教材は、今日の日米のテスト政策の類似性と差異性を分析したものである。現代のテスト政策を理解する上での基本図書である。</p>
参考図書	<p>尾崎ムゲン『日本の教育改革』（中公新書，1999年）ISBN:978-4-12-101488-7            児美川孝一郎『新自由主義と教育改革』（ふきのとう出版，2000年）ISBN:978-4-43-400443-8            黒崎勲『教育の政治経済学－市場原理と教育改革－』（東京都立大学出版会，2000年）            ISBN:978-4-92-523506-8            刈谷剛彦『教育改革の幻想』（ちくま新書，2002年）ISBN:978-4-48-005929-1 760円+税            斉藤貴男『教育改革と新自由主義』（子屋新書，2004年）ISBN:978-4-90-133041-1 800円+税            大桃敏行編『教育改革の国際比較』（ミネルヴァ書房，2007年）ISBN:978-4-62-304975-2 4,200円+税</p>
履修上のポイント	<p>現代の我が国における教育制度改革の動向を全般的に理解し、自由主義と新保守主義という理念的・思想的な背景を整理すること。次に、我が国の教育改革の動向を念頭に置きながら、日本のテスト政策を理解すること。特に、我が国の動向にも影響を与えたアメリカの「ハイスティクス・テスト」との類似性と差異性を理解すること。</p>
レポート課題 1	<p>1980年代以降の我が国の学校制度・教育制度改革の全体的な動向を概観すること。特に、教育制度改革の動向に注目しながら、その新自由主義・新保守主義の理念的背景に言及すること。  <b>留意点</b>：1980年代以降における我が国の教育改革の理念と実態の全体的動向を概観すること。</p>
レポート課題 2	<p>我が国の教育改革の動向を念頭に置きながら、日本のテスト政策の実態と問題点を考察すること。その際に、アメリカの「ハイスティクス・テスト」との類似性と差異性にも言及すること。  <b>留意点</b>：日本のテスト政策を国と地方自治体に分けて考察すること。その後、アメリカのテスト政策の動向を理解し、日米のテスト政策の類似性と差異性に言及すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： J. デューイ（市村尚久 訳）            教材名： 『学校と社会・子どもとカリキュラム』（講談社，1998年）            ISBN:978-4-06-159357-2 1,000円+税</p> <p>著者名： 北野秋男編著            教材名： 『日本のティーチング・アシスタント制度』（東信堂，2006年）            ISBN:978-4-88-713684-7 2,800円+税</p> <p>前者の教材は、古典的名著とされるデューイの著作であり、我が国の学校教育にも多大な影響を与えた経験主義教育の代表作である。欧米の教授学思想の系譜に位置づけながら、デューイの思想を理解すること。後者の教材は、わが国の大学生における「学び」の変容と実態を問題とし、大学生に対する学習支援のあり方を検討するものである。とりわけ、学生の学習支援を行うティーチング・アシスタント制度の重要性を理解したい。</p>
参考図書	<p>原聡助他編『近代教育思想を読みなおす』（新曜社，1999年）ISBN:978-4-78-850667-1            関川悦雄・北野秋男『教育思想のルーツを求めて』（啓明出版，2001年）ISBN:978-4-87-448028-1            1,743円+税            関正夫『21世紀の大学像』（玉川大学出版部，2000年）ISBN:978-4-47-209591-7            竹内洋『教養主義の没落』（中公新書，2003年）ISBN:978-4-12-101704-8 780円+税</p>
履修上のポイント	<p>『教育思想のルーツを求めて』を読み、教授学思想を教科主義と経験主義、一斉教授と個別教授などに区分し、その基本理念を理解すること。その上で、デューイの著作を読むこと。次に、竹内『教養主義の没落』を読み、大学における教養主義の崩壊過程を理解した上で、現代の大学生の「学び」の問題を考察すること。大学生の「学び」の変容の実態を理解した上で、大学における「教育重視」のあり方、学生への学習支援を行うための教授改革、TA制度などの重要性を理解したい。</p>
レポート課題 1	<p>デューイの『学校と社会』を読んで、経験主義教育の内容を記述すること。現代的視点から「学び」の問題にも言及すること。  <b>留意点</b>：欧米の教育思想を教科主義と経験主義、一斉教授と個別教授などに区分して、デューイの唱える教育学思想を正しく理解すること。最後に、現代的視点から、我が国の学校教育における「学び」の問題を批判的に言及する。</p>
レポート課題 2	<p>大学における「教養主義」の崩壊を理解した上で、現代の大学生の「学び」の実態を考察する。大学における「研究重視」からの脱皮、大学生の学習支援にとって有効な教授改革やTA制度のあり方に言及すること。  <b>留意点</b>：基礎知識として竹内『教養主義の没落』を読むこと。その上で、指定されたテキストを中心に、大学生の「学び」の実態、教授改革やTA制度の問題に言及すること。テキストの第1章から第5章、ならびに終章を中心に熟読して貰いたい。</p>